



2月12日

分裂・組織破壊組合を許さない!
大宮地本見解を発出する!

組合員を騙し裏切っていった『分裂・組織破壊組合』を許さず、
今こそJR東労組に結集し職場からたたかう大宮地本見解

2020年2月10日、JR東労組から無責任に分裂・逃亡した人たちによって『JR東日本輸送サービス労働組合』が結成された。私たちが18春闘大敗北の克服とJR東労組の再建に向けて奮闘している中で、組合員の雇用と利益を守ることを放棄してウソと不正をおこない分裂していくことは、全ての組合員への裏切りであり絶対に許すことはできない。

いま職場では、JR東労組が「責任組合」として存在し多くの組合員が結集していた頃には考えられなかった問題が発生している。矢継ぎ早に進む施策の中で、駅の業務委託が地本へ提案された4日後に何の議論もなく一方的に現場で進められた。我々が問題提起したことによって一旦止めて団体交渉で議論をしたが、それでも多くの問題が解決できていない。ハラスメントも多発し、輸送障害時に酒に酔って現場社員を恫喝する事象や、不安があり質問した社員に対して「偉い人に文句を言うな」とまで言われている。いまこそ我々が労働組合としてのチェック機能を発揮したかわなければ、物言えぬ絶対服従の職場がつくられてしまう。今回の裏切り分裂組織がつくられたことで、更に組織は縮小してしまった。しかし運動を意図的に壊し妨害する者たちがいなくなった今こそ『新生JR東労組運動宣言』に基づいて職場から取り組みを創り出し、信頼関係を再構築して加入・再加入を実現しよう。なんでも言い合える風通しの良い職場を創りだすことを通じて安全・安定輸送を確保し、今夏に迫った2020東京オリンピック・パラリンピックを成功に導こう。

そのような中で、いまだに職場では「希望通りの転勤がしたい」「試験に合格するため」等、JR東労組に所属していると不利益があると誤解して脱退てしまっている人も存在する。「そのような事はない」と複数回の団体交渉で大宮支社と確認しているが、まだまだ職場には伝わっていない現実が明らかになった。このような誤解を早急に解消するために、団体交渉で確認した「労働組合の所属の有無で不利益はない」という事を、職場でコンプライアンス違反を発生させないためにも、交渉確認に基づいて大宮支社と共にあらためて職場のすみずみまで徹底していかなければならない。

全組合員の皆さん！

いまJR東労組を抜けてはいけません！働く者の雇用と利益を守るのはJR東労組しかない事は、この間の歴史や職場の現実を見ても明らかです。私たちは18春闘の間違いを反省し、その克服を通じて職場で働く仲間やJR東日本会社の信頼を再構築するために『新生JR東労組運動』を更に職場から進めていきます。今回つくられたウソと不正にまみれた分裂組織を解体し、再度多くの仲間がJR東労組へ結集し安全で働きがいのある職場を創るために奮闘しよう！

全組合員で「大宮地本見解」を読み合わせ、雇用と利益を守るため組織強化・拡大を目指そう！